

ヒロバビロウドハマキ (別名 クロビロウドハマキ)

春にエゾマツなどの葉を糸でつづるイモムシ (幼虫)。最大長約26mm。頭は茶色で、複雑な黒い斑紋がある。体は暗い緑色。エゾマツ林で多発記録が1例知られているが、通常は珍しい種といわれている。

【学名】 *Eurydoxa advena*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera), ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道, 本州; 千島, サハリン, アムール, ウスリー。

【生態】

宿主: トドマツ, エゾマツなど。

年1世代。若齢幼虫で越冬。幼虫は5月に新葉を糸でつづって食べる。7月上旬に葉を紡錘状につづり、その中で蛹になる。成虫は7月中下旬に出現, 産卵する。若齢幼虫は葉に潜るか, 数枚の葉をつづって巣を作り, その中で越冬する。

発育ステージ	~3月	4	5	6	7	8	9	10	11~
幼虫 (■摂食, +休眠)	+++	+++	++■	■■■	··	··■■	■■■	+++	+++
蛹				··	◇··				
成虫・卵					··○○	○··			

【被害と防除】

1956年にエゾマツ林で多発した記録が1例あるにすぎない。当年葉しか食べないので, 多発しても木への影響はごく小さいと考えられる。防除は普通必要とされない。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場研究報告, 22: 85-129. (形態, 生態, 被害)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ヒロバビロウドハマキ hamaki/hirobabi/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/5.

